

気迫の守り カザフに雪辱



表彰式を終えて金色のテープが舞う中で歓喜するサクラセブンス。桑井亜乃(右から7人目)は中央で両手を挙げて喜ぶ

全12試合に先発出場

女子7人制ラグビーアジア予選

続く優勝を決めた。両大会の総合ポイントで1位となり、アジアの女王として夢の舞台へ進む。幕別出身の桑井亜乃(アルカス熊谷)立正

サクラセブンスが五輪を決めた。女子7人制ラグビーのリオデジャネイロ五輪アジア予選東京大会最終日が29日、東京・秩父宮ラグビー場で行われ、日本は決勝でカザフスタンに14-7で勝利、香港大会に

桑井 悲願つかむ

幕別出身

大会	勝	敗	引
カザフスタン	7	0	5
香港	5	0	5
中国	7	0	5
日本	4	0	7

※向ポイントの順位は大会規定による。2、4位は来年の世界最終予選へ。

密集から先制Tにつなぐ



【決勝・日本-カザフスタン】マイボールをつなごうとする桑井亜乃(右から2人目)。この後、中村知春主将(右)にパスし先制トライへつなげる

「家族のよう」年間200日合宿実る

泣いた。涙をぬぐってまた泣いた。優勝の瞬間、ベタベタからピッチに駆け込み、スタンドにいる家族を見つけた途端に感情がこみ上げた。「今までの練習や

は後半に同点とされた後、追撃を許さず、5809人の大観衆に歓喜を届けた。日本代表は年間200日近く合宿や試合に費やされる。午前6時からウエイトトレーニングなど厳しい4部練習も乗り越え、桜の戦士たちは「まるで家族のよう」(桑井)という強い連帯感で結ばれている。

た。カザフスタンとの決勝は雪辱の舞台となった。決勝は予選より3分ずつ長い10分ハーフ。桑井は「試合時間が長くなれば、持久力

いろいろな支えを思い出した。カクテル光線が桑井亜乃のくしゃやくしゃになった顔を照らした。

前年3分、スピードに乗った山口真理恵がゴール前へ止められたが、ぼれ球を拾ったのが桑井だった。

素早く右へ展開し、中村知春主将の先制トライにつなげた。桑井は前半で退いたが、出場時間帯には相手の巨漢選手を倒すなど気迫の守りを見せ続けた。チーム

この4、5年で選手たちの体と心が大きく成長したと浅見敏子ヘッドコーチ。アジアを制したが、桑井は「オリンピックでメダルを取ることが私たちの最終目標。私自身はプレー時の落ち着きが課題。パススキルももっと上げたい」とさらに高みを見据える。

12月3日から始まるワールドシリーズ第1戦に向け、チームは30日にドバイへ出発。世界3位の豪州などと対戦する五輪前哨戦が早くも待ち構える。桑井は「強豪との距離を測りたい。そして世界に追い付き、追

決勝戦直前、アイスホッケー女子日本代表「スマイルジャパン」の選手23人による応援の寄せ書きがサクラセブンスへ贈られた。寄せ書きには、桑井が以前所属していたフルタイムシステム御影グレースの3選手のメッセージも。GK近藤真衣は今までやってきた事を100%出し切ったリオに行ってください。応援しています。FW小野亜希子は「ハードワーク!! 強い気持ちで頑張ってください」と激励。DF武田莉奈は「リオに向かってファイトです!! 応援しています!!」に続いて、「あのちゃん頑張ってください!!」

スマイルJ 応援寄せ書き

と桑井への思いを記していた。西日本代表を応援する太陽生命保険が企画。スマイルジャパンのGK小西あかね(SEIBUプリンセスラビッツ)と太陽生命の田中勝英社長が、日本ラグビーフットボール協会の本城和彦代表委員、会オリンピックセブンス部門長に手渡した。



日本ラグビーフットボール協会の本城氏(右)にスマイルジャパンの寄せ書きを手渡す太陽生命保険の田中社長と小西選手(左から)